

2015年2月27日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

**「たち吉」への投資を決定
ブランド再構築と海外需要の拡大を目指す**

投資ファンド運営のニューホライズン キャピタル株式会社（本社 東京都港区、取締役会長兼社長 安東泰志、以下「NHC」）は本日、株式会社たち吉（本社 京都府京都市、代表取締役社長 岡田高幸）の再生並びに成長支援を目的とした投資を正式に決定しました。本事案は、総額約11億円規模の投資となる予定でニューホライズン2号投資事業有限責任組合（NH-2）の対象事案となります。

たち吉は日本の陶磁器の伝統文化を約260余年に亘り一貫して守り続けてきました。日本人の生活の豊かさを提供してきた「たち吉ブランド」ですが、消費者の嗜好の変化と資金力の不足によって、陶磁器の売り場面積の縮小を余儀なくされ、加えて安価な海外製品との競合といった内外の環境の変化に対抗する手立ての遅れから2012年以降の消費需要回復にも関わらず、収益の悪化が続いてきました。

NHCは、本件投資後、全社員とお客様が共有できる「たち吉ブランド」の世界観を再構築し、それに基づき、①人心の一新、②不採算部門の見直し、③商品政策の再構築等を図るとしています。また、ネット販売戦略を見直すほか、海外においても、日本の伝統文化に対する高い関心を生かし、事業拡大を積極的に推進する構えです。

社長の安東泰志は、たち吉の再生支援を決意した理由について、「1752年に京都で生まれた京都発祥の老舗ブランドを再生させ、長らく消費者に愛され続けてきた日本の伝統文化を守りたいと考えたからです。たち吉の下には全国の有名な陶磁器の生産者が控えており、たち吉の経営不振はこれらの窯元の危機となって跳ね返ってきます。このように、和食器の伝統を守ることは、生産者から消費者まで多数の人々の利益に叶うものであり、それが出来るのは我々しかいないとの使命感から投資を決意致しました」と語っています。

以上

ニューホライズン キャピタル株式会社

産業再編、事業再生のプロを多数擁する独立系企業再生（PE）ファンド。02年2月に創業した前身のフェニックス・キャピタル時代から06年10月の会社分割を経て通算13年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の累積運用資産総額2,500億円超）を背景に、NHCとして2本目、創業から8本目のファンドを運営しています。02年以来、すべてのファンドの創設時にキーマン（主運用責任者）をつとめてきた安東泰志をはじめとするNHCのチームメンバーは、三菱自動車、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急工業、市田、ツムラ、日立ハウステック、丸茂工業、まぐまぐなど、開示可能なエクイティー投資先だけで30社、全体では90社以上という日本随一の企業再生・再編投資実績を有しています。

本件に関するお問い合わせ先：

広報担当（IFC） 竹江

電話 03-5532-8921